

1. はじめに

学術情報部門は、「知的情報の蓄積・管理」、「知的情報の発信」を柱に、大学内の各種データベース構築の技術支援や、統合的なデータベースシステムの企画・技術開発などの活動を行っています。また、2008年に全学の情報施策を統合する情報戦略本部が設立され、「学内情報資産の統合管理と利活用推進」というミッションが加わり、全学統合認証システム、全学ポータルなどの構築および構築支援を実施しています。

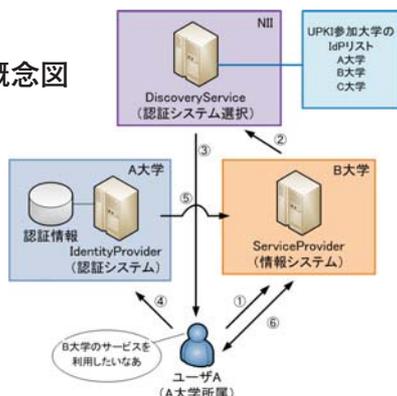
2. 全学ポータル

現行の「アキャンポータル」は、大学からのお知らせ、履修情報、成績情報、就職情報、サークル活動、図書サービスなど、学生教育にかかわる各種情報提供を中心に開発されたシステムです。この「アキャンポータル」の学生教育向けの機能を充実させるとともに、将来構想を視野に入れ、利用対象を、金沢大学関係者（学生、教職員、卒業生、退職者、学生の家族、大学サポータ等）と大幅に広げたシステムに拡張するため、ポータル、および、金沢大学統合認証システム（KU-SSO）の開発を行っています。今年度は、4年計画の1年目で、第一弾として、研究・業務にかかわる情報も統合的に利活用できるよう拡張しました。

3. UPKI 認証基盤による統合認証システム

国立情報学研究所（NII）が進めている大学間ユーザ認証連携事業（UPKI）に参加し、UPKI 認証基盤によるシングルサインオン実験システムの開発、実証を行いました。図1にUPKIの概要を示します。今年度から運用試験段階となり、利用者にもサービスを公開して実験を続けています。これまで

図1 UPKIの概念図



大学内でしか利用できなかった電子ジャーナルを学外でも利用可能にするなどのサービスを提供しました。また、これらの実験で得られた成果は、KU-SSOに受け継がれました。

4. デジタルデータリポジトリ

写真・動画などのコレクションや実験資料など、学内に蓄積されている非文献コンテンツを対象とした共通プラットフォーム（デジタルデータリポジトリ）を開発しました。このシステムは、図書館が運用する学術リポジトリ（KURA）で利用されているリポジトリプラットフォームのDSpaceを改良し、KURAでは取り扱われない非文献コンテンツ用に最適化したもので、特に、保守性と可視性を向上させました。図2は、可視性の向上策として導入した、非文献コンテンツが持つ地理的な位置情報とGoogle Earthの連携の概要です。

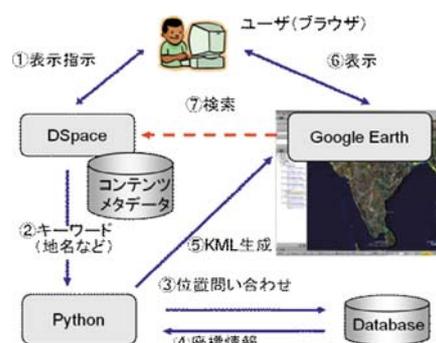


図2 Google Earthと連携した可視化の概要

5. 研究・開発

高度なデータベースシステムや認証基盤に関する研究・開発も積極的に進め、実用システムへの応用を検討しています。表1に研究テーマの一覧を示します。

表1. 研究テーマ一覧

- ・実験・計測データ（バイナリデータ）への自己記述型データフォーマットの採用
- ・データマイニング（データからの新事実発見）
- ・リポジトリおよびメタデータベース
- ・分散DBシステム間の高度な認証・認可法
- ・XMLなどを利用した異種DB間の相互通信法

■ 問合せ先：

db-admin@db.kanazawa-u.ac.jp

学術情報部門 笠原 禎也, 高田 良宏